

た。大陸にでも行って、国のためになる仕事をしたかった。

その後の西郷四郎の生活は長崎ながさきにうつり、長崎は、四郎にとって第二のふるさとになりました。

四郎が長崎にうつる少し前の長崎県知事は、会津出身の日下義雄くさかよしおであり、初代しよだいの長崎市長、北原雅長きたはらまさながも会津出身でしたが、長崎時代の四郎に大きな影響えいぎょうをあたえたのは、二本松にほんまつ出身の鈴木天眼すずきてんがんでした。

天眼が社長をしていた東洋日とうやうひの出新聞社でしんぶんでは、四郎は、その片腕かたうでとして編集長をつとめたこともありました。

天眼といっしょに、各方面によびかけてつくった長崎遊泳協会じゆうえいきょうかいでは、四郎は監督かんとくという大切な仕事をしていました。

長崎遊泳協会の水泳は、昔の武士たちが伝えた武道の中の泳法えいぼうを教えています。講道館の柔道じゆう道が、昔の武道としての『やわら』を基もとにして始められたの